

# 山形市指定文化財現況確認調査 2020 年度事業報告

青野友哉 AONO, Tomoya / 文化財保存修復研究センター研究員・歴史遺産学科准教授

## 1. 事業の概要

本事業は、山形市指定文化財の保存状態や周辺環境及び活用などの現況を確認する調査事業として、山形市教育委員会（以下、山形市）からの委託を受けて当センターが実施したものである。

山形市指定文化財は2020年11月現在で90件あり、種別は史跡、名勝、天然記念物、有形文化財（建造物・絵画・書跡・典籍・古文書・彫刻・工芸品・考古資料・歴史資料）、有形民俗文化財、無形民俗文化財と多岐にわたる。文化財の所有者は約8割が寺社であり、その他が山形市、山形大学、個人である。

事業の目的はこれら指定文化財の、①現況及び環境・所在、②破損状況、③防災・防犯対策状況、④申請・届出等の状況、⑤活用に関する取り組み等を把握することにある。その上で、文化財の破損等の課題がある場合には、講ずるべき措置の提案や専門的見地からのアドバイスを記した報告書を作成することとなっている。

調査は1年に20件程度行い、4～5年間ですべての指定文化財の調査を終える予定である。

## 2. 2020年度の調査対象と方法

2020年度の調査対象は、山形市が所管する最上義光歴史館と山寺芭蕉記念館に保管されている文化財を中心に、有形民俗文化財の「なかたち石」、天然記念物の「霞城の桜」を加えた20件とした。

今回、寺社や個人所有の文化財を対象としなかった理由は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で多くの方々の接触機会を極力避けたいと考えたためである。

そのため、本来は点在する文化財を所有者の日程に合わせて数日間かけて調査するところ、2施設を中心に2日間（11月29日、12月20日）で調査を終えることができた。

調査員は考古学を専門とする筆者と文献史学を専門とする竹原万雄（東北芸工大歴史遺産学科准教授）が担当し、本学学生を調査補助員として同行させた。調査方法は、最上義光歴史館では揚妻昭一郎主幹・学芸員に、山寺芭蕉記念館では相原一士主幹・学芸員に文化財の開封をしていただいたのち、史料の観察・写真撮影を青野と竹原が行った。また、保管・活用状況についての管理者からの聞き取りと調査票への記入は学生が行った。

## 3. 調査結果

今回調査した文化財の大半は、温度・湿度の管理が徹底された展示室・収蔵庫を有する博物館で保管されていたため、資料の損傷・劣化もなく、保管・活用の状況も良好であった。「最上義光銘鉄鉢」や義光公所用の「三十八間総覆輪筋兜」は鉄製品でありながら保存状態が良く、展示公開もされていた。また、「最上家関係書状」や「芭蕉会式懐紙」、「蛙合短冊（芭蕉「ふる池や」発句）」などの書画類は期間限定で公開するなど、資料保存への配慮がなされていた。いずれも来歴の確かな貴重な歴史資料として細心の配慮により保存管理と活用がなされている。

一方、天然記念物「霞城の桜」については老木である桜の木が腐朽しつつあり、将来的な樹木の保護措置と見学者・通行人の安全対策が課題としてあげられた。



写真1 最上義光歴史館での調査風景



写真2 山寺芭蕉記念館の展示室

#### 4. まとめ

本事業は山形市としても当センターとしても初めての試みである。山形市の指定文化財の数は、国指定24件、県指定86件、市指定90件、登録有形文化財21件と非常に多い。国・県指定の文化財については、毎年山形県が実施する文化財パトロール(国庫補助事業)が行われ、これに山形市の文化財担当者が同行することで現況の確認が可能である。しかし、これとほぼ同数の市指定文化財を抱える山形市では、2005年～2015年まで毎年直営で行っていた現況調査の方式を見直し、本年度から委託事業として実施することとなった。

一方、受託者である当センターは文化財の保存・修復による社会的な貢献が使命であるとともに、文化財の専門職を目指す学生に対して実践的な教育を行う機関でもある。その点、本事業では山形市のご配慮により調査補助員として学生の同行が許されており、上記の使命と目標にかなうものとなっている。

特に今年度は博物館活動を実践する揚妻学芸員と相原学芸員に直接解説いただき、資料の取り扱い方法を間近で見せていただけたことは、学生にとって現況確認調査の方法を学んだ以上の収穫であったに違いない。

次年度以降は所有者である市民の方々のご協力を得つつ、文化財の保護と人材育成を兼ねた本事業を充実させていきたい。

調査補助員 (2020年度)

歴史遺産学科1年：石川 楓、2年：加藤彩花・土井愛夕美・福田清香、3年：片桐颯太・安田楓加

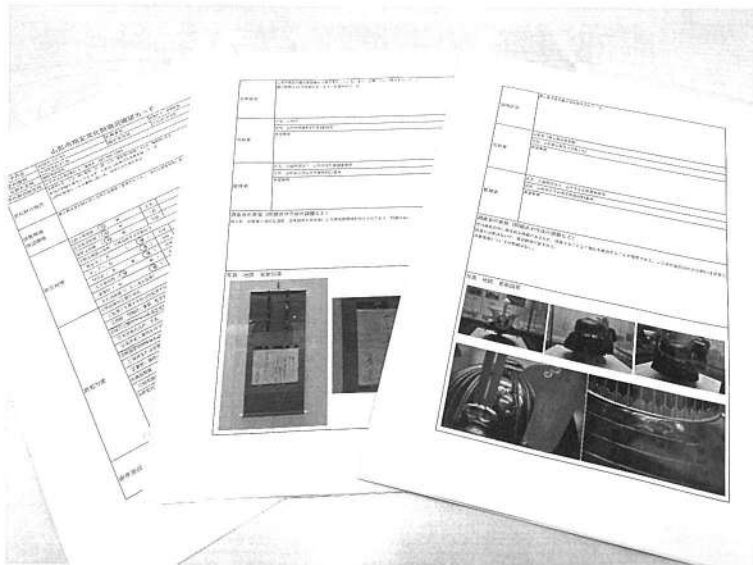


写真3 成果物として提出した現況確認カード (両面)

山形市指定文化財現況確認カード

確認年月日	令和 年 月 日	記載者名		
指定の種別	指定年月日		年 月 日	
文化財の名称				
文化財の所在地	(連絡先)			
文化財の現況	非建物にあっては、特に屋根・柱・壁・土台・腰板等の破損、ゆがみ、腐害等の状況			
保管環境 周辺環境				
防災対策	1)防火管理者 (有・無)	氏名		
	2)自衛消防隊 (有・無)	人数	名	
	3)防火訓練 (有・無)	回数	回/年	
	4)防火施設の有無、点検回数及び作動状況			
	貯水池 (有・無)	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
	ポンプ (有・無)	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
	放水銃 (有・無)	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
防犯対策	火災報知器 (有・無)	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
	盗警針 (有・無)	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
	その他設備	点検	回/年	作動状況 (良・不良)
	1)常時陳列公開の場合			
	①監視人を置き常時巡回監視を行っているか	はい・いいえ		
	②開館、閉館時に警備、監視を行っているか	はい・いいえ		
	2)陳列公開はしないが見学者がある場合			
①見学者の住所、氏名、人数等を記録しているか	はい・いいえ			
②見学者に案内を付けているか	はい・いいえ			
3)無居住の社寺または常時居住場所と文化財が隣接している場合				
①常時または定期的に出入口窓等の異常を巡視、点検しているか	はい・いいえ			
②警察に遠時パトロール等を依頼しているか	はい・いいえ			
4)施設整備				
①防犯施設が実績に応じて適切に設置されているか	はい・いいえ			
5)防犯対策の問題点に関する所感				
保存施設	1)標識/標柱 (有・無)			
	2)案内板 (有・無)			
	3)説明板 (有・無)			
	4)境界標 (有・無)			

図1 現況確認カードの様式 (表面) : 国の文化財パトロール事業にならったもの